

風土記の丘の花だより¹⁴⁴

今、そしてこれから見られる植物(2022年7月23日)

全国的に記録的な大雨が降って、日本のあちこちが大変なことになっています。早く天候が落ち着いて欲しいものです。



さて先日、「そろそろ咲いているかな?」と思ってリョウブを見に行きました。里山には普通に生えているそう珍しくもない木ですが、ここでは余り見かけません。これは西に向かう園路から金竜大神の方におりて、大日山の方に曲がって上りかけた左側にある木の写真です。20日の水曜日には満開で、大きなアゲハの仲間がたくさん集まって盛んに蜜を吸っていました。(場所の説明、わかりましたか)



クサギの花もあちこちで咲き始めています。葉は独特の香りがして、人によっては臭く感じることから「臭い木・くさぎ」と名付けられています。でも花は涼しげで可憐です。葉にはよくツブツブ付いていますが、病気ではなく、クサギハコブフシといって、ダニの仲間が作る虫こぶです。この花にももうすぐアゲハの仲間が集まってくることでしょう。



3つ目は、紹介しそびれて、今ごろになってしまい、ピークを過ぎてしまったムラサキニガナです。今は綿毛も花も、そして少しはつぼみもありますから、まだあとしばらくは残り花を楽しめそうです。黄色いふつうのニガナとは全く違い、背丈があり、ひよろひよろしてよく目立ちます。



小早川家の庭や、そこから少し坂を上った右側にキヨスミギボウシの花が咲いています。一月ほど前も大きなギボウシが咲いていましたが、それはオオバギボウシでした。葉はそれよりも細長く、花茎も長い感じがします。ギボウシという名前は、葉の形が橋の欄干などについている飾りの「擬宝珠」・ぎぼうし」に似ているので名付けられたそうです。松下